

平成 29 年度 横浜市立大学COC事業シンポジウム

横浜金沢シーサイドエリアのまちづくり

～産民官学で創り発信する金沢シーサイド地区の魅力と未来～

○平成 30 年 3 月 5 日（参加者数：70 名）

@横浜市立大学金沢八景キャンパス YCU スクエア・ピオニーホール

○後援：横浜市温暖化対策統括本部、横浜市政策局、横浜市金沢区

《実施内容》

開会挨拶：横浜市立大学学長 窪田吉信



COC 事業について：横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース教授 鈴木伸治



第一部：活動報告



(1) シーサイドタウン地区での取組と今後

横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース准教授

三輪律江

(2) 産業団地の未来と Aozora Factory



横浜市立大学国際総合科学部経営科学系経営学コース准教授

芦澤美智子

第二部：公開ディスカッション「魅力の掘り起こし・発信に今必要なこと」



●ファシリテーター

横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース准教授

中西正彦

●登壇者：[産]・関東プリンテック株式会社常務取締役 本多竜太

・株式会社ヨコハマ機工専務取締役 梅宮さや香

・有限会社協和タイヤ商会代表取締役 山口智之

[民]・これからの並木を創る会事務局長 福田博

・地区社協事務局長・これからの並木を創る会 三輪くみこ

・UDCN 並木ラボ利用者・並木子ども哲学 笹浪美緒

・横浜市住宅供給公社街づくり事業課事業推進担当課長 太田祐輔

・石井造園株式会社代表取締役社長 石井直樹

[官]・横浜市経済局ものづくり支援課長 中村隆幸

・横浜市政策局男女共同参画推進課長 山本千穂

・金沢区区政推進課長 伊倉久美子

[学]・関東学院大学建築・環境学部准教授 中津秀之

・横浜市立大学まちづくりコース准教授 三輪律江

・横浜市立大学経営学コース准教授 芦澤美智子

《ディスカッション趣旨》

金沢シーサイドタウンは職住近接の街としてできたにも関わらず、明確な形で「産」と「民」が連携できていない現状を踏まえ、『産業団地と住宅団地の連携』が最も重要なテーマと考え、どうやったらこれを進めることができるかを考えるとともに、それを「官（行政）」と「学（大学）」がそれをどう支えられるかを考える機会とする。

《ディスカッション要旨》

【住宅地側から見た産業団地】

○住民にとって産業団地は、きっかけがあれば行くけど、ないと行かない場所。「産業団地に行けば、こういうことができる」という何かがあれば、若い住民は集まるのではないか。あとは交通アクセスの便が課題。

【産業団地から見た住宅地側】

○震災以来、近隣住民には産業団地で働いて欲しいという思いはあるが、そんなに大きい会社ではない中で、どうやったら効果的に募集できるかが分からない。
○地域住民と企業を、働き方のスタイルの面からマッチングすることも必要。また、どうマッチングするか情報の問題もある。

【情報共有】

○住宅地側と産業団地側の情報が相互に流通し、お互いのことを知ることから始め、お互いを知るような場が継続的にあることが大事。
○「情報を届ける手段を確立する」という前提条件を、どうにかクリアしないといけない。それが成り立たなければ、活動の担い手にも届かない。

【地域活動】

○緑地帯を活かして住宅地側と産業団地側をどう繋げ、地域でどう整備するかは大事な話。
○ふなだまりに船便などを出すなど、ふなだまりの活用を考えられると面白いのではないか。

【産（産業団地）】

○産業団地全体を巨大な1つの大企業と見れば、シェアできるものがあるのではないか。
○企業は、住民と付き合うことが、どれだけの企業価値を作るかを思い知る必要がある。そして、企業が住民を無視することが損だという状況を作ることが大事。

【民（活動の担い手）】

○どうやったら活動に参加してくれるかについては、活動者に対してどのように金銭面ややりがいなどのメリットや熱意等を、どう最初に提示できて、一線を越えられるかによる。

【官（行政）のかかわり】

○様々な活動は、行政ではなく、地域の担い手が進めていくことで継続性が生まれる。そのためにも、相互の情報の共有と、顔が見える関係を作っていくことが大事。

○地域の活動をどう橋渡しして、支えていくのか。お金というより、人と人をどう繋げていけるかを考えたい。

【学（大学）のかかわり】

○学生は入れ替わっていくため、地域に派遣し続けるということは現実的ではないと考えているが、住民の次の世代を引き出すための触媒として、学生派遣効果はある。

【まとめ】

○個別の活動だけで考えるのではなく、どうやってパッケージ化したり、他の活動等と繋げて、全体としてのメリットを考え、どのように動かしていくかが大事。

○様々な取組は継続するのが大事であって、地域にしっかりコミットすることが重要。地域の中の色々な人が、色々な場で活躍し、輝けることが大事。

○多種多様なプロジェクトが立ち上がる環境をどうやって全体として作っていくか。組織がプラットフォームを作ることも大事だし、個人がそれを抱えていくことも大事。

